

## 令和6年度千歳市労政審議会 議事録

### 1 開催日時

令和6年9月5日(木) 15時00分

### 2 会場

千歳市役所 議会棟2階 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 労政審議会委員

今村 静男委員(会長)、北村 富佐子委員(副会長)、川原田 聡委員、  
小松 八重子委員、兵頭 博之委員、

#### (2) 事務局

磯部産業振興部長、松原産業振興部次長、辻商業労働課長、日裏労政係長、  
佐藤労政係主事、本田雇用対策推進員

### 4 議事

#### (1) 「千歳市における労働行政について(令和5、6年度)」

地元就職・人材確保支援事業の実施状況について

しごと情報発信サイト「ちとせの仕事」の運営状況について

その他事業の実施状況について

季節労働者通年雇用促進支援事業の取組状況について

#### (2) 「地元就職と人材確保の促進について」

### 5 内容

#### (1) 「千歳市における労働行政について(令和6年度)」

松原産業振興部次長の進行により、事務局の紹介を行った後、今村会長に進行を交代し、審議を行った。

続いて、事務局辻商業労働課長から議事(千歳市における労働行政について)に沿って、令和5年度における実施事業の実績及び令和6年度の事業内容を説明し、質疑応答を行なったが、質問・意見等はなかったことから、議案の内容については報告済みと決定した。

## (2) 「地元就職と人材確保の促進について」

地元就職や人手不足の解消に対する支援について、はじめに千歳公共職業安定所所長 川原田委員より近年の雇用情勢について説明いただき、それぞれの委員の立場から市内の実情やニーズに関するご意見やご所見について発言していただいた。内容については次のとおり。

### 【A委員】

雇用情勢について、まず、ハローワーク千歳は本所と夕張出張所で構成され、本所では千歳市、恵庭市、夕張出張所では夕張市、長沼町、栗山町、由仁町をそれぞれ管轄している。その中でも本所で管轄している千歳市・恵庭市における有効求人倍率は0.77倍となっており、昨年同月の0.87倍と比較し、0.1ポイント低下している。活気があると言われている千歳市でなぜ有効求人倍率が低下しているのかというと、まず、ハローワークに登録している方々の就職が決まらず有効求職者として残っているということが影響していると考えられる。「雇用情勢ちとせ」4頁目に記載されている新規求職申込件数の年齢別に確認すると、55歳以上が前年比23%増加していることがわかる。一般的に高齢者の就職には時間がかかると言われており、有効求職者として残りやすい傾向が見て取れる。

また、求人数が増加することでも有効求人倍率は上がると考えられるが、千歳市及び恵庭市の求人数を確認すると、令和6年7月は852件、令和5年7月は858件と比較し大きな変化は見られていない。ここで示した求人数については、ハローワーク千歳で受理した求人をもとに算出した件数である。近年では札幌や東京に所在する本社で一括して全国各地の求人を出す傾向が強まっていることから、全国のハローワークで受けた求人を就業地別で見ると千歳市、恵庭市での求人数は852件よりも340件ほど多い状況である。地域外から寄せられた求人も含めると、仕事は一定数確保されていると言える。

次に、10月1日に控えている「最低賃金の改定」について、現行の960円から50円上昇し、1,010円となる。事業主にとっては上がり幅が大きい、労働者にとっては上げ幅が不十分などと様々な思いがあることと思う。そこで懸念されるのが、人件費の増加により採用を抑制するという「求人控え」である。その一方、最低賃金の上昇に伴い、「業務改善助成金」の利用が増加している。賃上げと業務改善を抱き合わせで行った企業に対して支給される助成金であり、実際に千歳市内にも活用している企業も見受けられる。まず、このような助成金があるということを知ってもらうことが重要であると考えられる。

次に、近年話題となっているスポットワークについて。活用している事業所も増えていると聞いているが、市内の利用状況については、市で8月に市内事業者を対象に実施した「雇用需要等調査」にてスポットワークの活用状況についての設問を設けたと聞いているので、その回答結果に注目している。

最後に、ラピダスの求人動向については、引き続き地元の産業に与える影響がどの

程度あるのかを注視していく必要があると考えている。

【B委員】

A委員のお話にもあったように、10月に改定される最低賃金について、千歳地区連合としては、労働者の立場から賃上げを訴え続けている。事業者向けに、各種助成金の活用等の周知に力を入れていきたいと考えている。

【C委員】

企業にとって、各種助成金等に関する情報をどこからどのように収集するのかということが課題となっている。企業が当該制度を知るきっかけづくりをしていただけると助かる。

また、合同企業説明会などに参加しているが、月初や月末の業務が多忙な時期に開催していることが多い。開催日を月中に変更するなど工夫することでさらに多くの企業が参加できるのではないかと聞いている。

【D委員】

工業系の企業はいずれも採用活動に苦戦している印象。求人は出しているが、製造業には目を向けてもらえない。高校生向けの合同企業説明会など、参加はしているものの、企業ブースへの着席数などが芳しくないと聞いている。

昨年、北陽高校と工業クラブが連携し「工業デュアル」という事業で、地元の企業への就職を促進することを目的とし、5日から7日程度の企業訪問（インターシップのようなもの）を実施している。工業高校への聞取りからも、就職よりも進学を希望する学生が多いとのこと。地元企業に就職したいと思えるよう、地域の魅力を発信していく必要があるのではないかと聞いている。

【事務局】

市内には11の工業団地があり、270社以上の企業に進出していただいている。そのほかにも、多くの事業者が事業を行っている。市内企業にとって喫緊の課題は、人材確保であると考えている。ラピダスの進出により、市内が活気づいている一方、進出による反動も少なからずあると感じている。市として何ができるのか検討しながら事業を行っていききたい。地元就職人材確保支援事業は、昨年度の実績を考慮し、合同企業説明会を昨年度の2回から今年度は3回に増やし、企業向けセミナーは市内企業のニーズを考慮しテーマを昨年度から変更するなど、臨機応変に事業を実施しているところである。今後、事業に関する意見や要望などがあった場合は商業労働課に連絡いただきたい。

16時00分 閉会

以上